



「家を建てるとき、たまたま不動産屋で春日部市の『ふれあい家族住宅購入奨励事業』のことを聞き、20万円分の商品券は有効に使わせていただきました」と英一さん。

## 私たち、三世代ふれあい家族です!

家族が近くに住んでいると  
いつも安心していられる

内藤英一さんは3年前に、両親の啓一さん・輝子さんが暮らす春日部市に戻った。歩いて行き来できる距離に家を建て、妻の紀子さん、二人の娘さんとも引越してきたのだ。

「東日本大震災が起きてから、やっぱり家族はみんな近くに住むのがいいと思いました。毎日、安心して暮らせませすからね」と紀子さん。英一さんも、「私が群馬県で仕事をしているので、何かあったときに、すぐに帰宅できない。せめて両親と自分の家族が近くに来てくれたら安心だと思いました」

非常時の安心に加え、高校生の長女・紗恵子さんや、中学生の次女・千恵子さんは、「親とちよつと気まずいときに祖父母の家にやってくる」という。

子どもたちにとって安心できる居場所が近くにあることで、反抗期もそれほど心配せずに乗り切れたという。

休日には、やはり近所に住む英一さんのお姉さんの家族や、東京に住む弟さんの家族も集まってバーベキューをすることもある。総勢16人での大宴会だ。

「三世代が近くに住むのは特別なことじゃなく当たり前のこと。お互い自由に暮らして、会いたいときにパツと集まるのが楽しいんです」と輝子さん。

幸せとは特別なことではなくて、いつも身近に家族の存在を感じていることなのかもしれない。

※「ふれあい家族住宅購入奨励事業」とは……市内に住んでいる親世帯の近くに居住するために、初めて住宅を取得する子世帯に対し市内共通商品券を交付する事業。詳しくは、市ホームページをご覧ください。



赤ちゃんに語りかけながら、沐浴初体験。

### 初孫教室大盛況!

初孫を迎える  
祖父母に、育児情報  
を提供している教室。年に5回開  
催だが、人気があり、すぐに予約が  
いっぱいになる。



今回も14組18名が集まった。

「育児の今と昔」の講話や離乳食とおやつを試食のあと、等身大の約3kgの赤ちゃんの人形を使って、「組ずつ沐浴の体験をした」。

後藤貢さんは10月に初孫が生まれる予定で、妻の静子さんと参加。沐浴体験をした感想は、「赤ちゃんは意外と重い。落としそうで怖かったけど、前もって体験しておくって役立ちそう」とのこと。

娘に赤ちゃんが生まれるので「手伝ってあげたくて」と参加した飯塚悦子さんは、「自分が育児をしていた頃とは、沐浴のやり方も違うので勉強になりました。おはあちゃん同士仲間もできて、楽しかったです」と笑った。